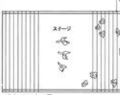
みんなの縁側
~マンションに創る新たなつながり~

私はマンションが立ち並ぶ通りにあるマンションに住んでいます。
マンションでは住人の付き合いや関わりは、ほとんどありません。住人とはホールやエレベーターの中で挨拶する程度で、コミュニケーションをとることは、ほとんどありません。
せっかく、多くの人が集まって暮らしているのに、住人どうしの関わる機会が少ないため、近隣の戸建住宅地のような、昔ながらの伝統的行事や文化的イベントはありません。子供の頃、遊ぶ場所がなく、友達と家の中で遊んだり、危険な場所へ行って遊んだりしていましたが、子供心に、お祭りや、行事のない生活に少し寂しさを感じることもありました。
私は、マンションの住人がつながり、交流できる場、同時に、子供たちが安心して遊べる場を提案したいと思います。

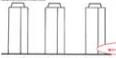
私の提案する建物を言葉で表すなら、それは『マンションの縁側』です。
縁側というのは、家の中と外をつなぐ空間であり、また、外の自然を感じながら、ゆっくり過ごすことができる日本独特の、マンションには無い空間です。
私のマンションの前には商店が立ち並んでおり、その上にはアーケードが続いています。なので、アーケードの屋根を2層にして、1階は商店用、2階は近隣のマンションどうしがつながる場として人が通れるようにし、そこでマンションの住人がつながり、交流できるようにしました。そうすることで「上下のつながり」が生まれ、また、隣のマンションまでアーケードが続いているので、マンションの縁側を作ることで「隣のマンションの住人とのつながり」が生まれました。そして、縁側の役割をしている2階の道に芝生を敷くことにより、マンションの住人には関係の無い「自然とのつながり」を生み出しました。

マンションの縁側を、読書の空間、会話の空間、遊びの空間、伝統文化の空間と、4つの空間に分けることで、それぞれの空間の意味が明確になり、互いの空間に邪魔されること無く、きちんと役割を果たすことができます。このように、4つの空間に分けることで、直線的で変化の無い空間に変化を生み出すことができます。

この『マンションの縁側』により、さまざまなつながりを感じながら成長でき、人とのつながりを持つことで、マンションには無かった「文化」が生まれると期待しています。

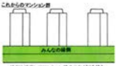


今までのマンション群



マンションどうしのつながり無し、地域との関係性も希薄。

これからのマンション群



縁側を活用してマンション群のつながりを持ち、
縁側の開放で地域と関わるきっかけを持つ。
マンションの住人の新しい文化的空間。

配置図

平面図 1:100

TSUNAGARI 1

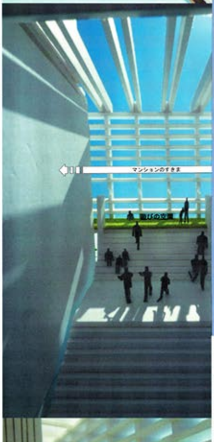
近隣のマンションを縁側でつなぐことで、マンションどうしの共通・共用の空間が生まれ、今までのマンションには、ほとんど無かった近所づきあいをもつきっかけとなる。

TSUNAGARI 2

全長83mの直線的な開放感があり、屋根と壁がルーバー状になっているので、日光による適度な光と影が生まれ、「自然とのつながり」をもつことができる。

TSUNAGARI 3

ここは、マンションの住人が寄付した本が読める場となっている。読書を通じて、文化とつながり、マンションの住人のの新しい文化を気づきあげるきっかけとなる。

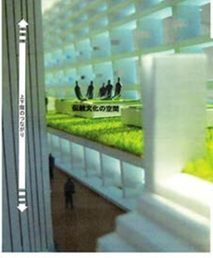


TSUNAGARI 5

マンションどうしの間には大階段が設けてあり、広い踊り場をステージとして使うことが出来る。階段をいすの代わりにして、ステージで発表会などをすることができるので、マンションの住人や商店の人たちとの文化的発表の場として活用することができる。

TSUNAGARI 6

囲碁、将棋などを近隣の高齢者から教わる伝統文化を受け継ぐ場となっている。核家族が多いマンションの子ども達が、高齢者とつながるきっかけとなる。



TSUNAGARI 7

1階と2階は階段でつながっており、一般の人もあがることが出来る。「1階で買った食べ物を2階で食べる」など、1,2階を活用することができる。

TSUNAGARI 4

商店の前の歩道は、今まで無機質な屋根がかけられていたが、2階建ての歩道にすることで屋根面からの影響が少なくなる。また、車道との間をルーバー状にすることで、日陰が生まれ、涼を得ることができる。